

# 埼玉育ちのグローバル人

## 大草原の小さな家…に暮らす、元留学生

### 第2回 「言語教育のスペシャリストとして 役に立てる場所」

平成24年度「埼玉発世界行き」奨学生  
カーン友子 さん



SAITAMA

埼玉県マスコット「コバトン」

皆さん、こんにちは！今回はリレーエッセイの2回目として、変わりゆく世界情勢とコロナ禍の中で、アメリカの大学で働いた経験について少しお話しします。

博士号を修得後に着任したイリノイカレッジは、シカゴから車で4時間ほどのイリノイ州中南部、小さな町ジャクソンビルにあります。学生が全部で1000人ほどの4年制リベラルアーツカレッジで、私はそこで日本語・日本文化を教える（日本で言うと助教授～准教授にあたる）アシスタント・プロフェッサーとして働くことになりました。イリノイカレッジに来る学生のほとんどは小さな田舎町の出身で、日本といえば「アニメ」「マンガ」「スシ」。これだけインターネットの普及した時代でも、遠いアジアの国に関する知識はとても偏っていました。そんな学生たちに、今まで彼らが知らなかった日本の姿を紹介し、そして日本語・日本文化を教えるのが私の役目になりました。教師として彼ら



日本語・日本文化について講義中

の「日本語学習・第1日目」から日本に留学し更には大学を卒業していく、小さなブロックを一つずつ丁寧に積み重ねていくようなそのプロセスを見守りサポートするのは、私にとっては何にも代えがたい貴重な時間です。



日本文化を学ぶ学生たちと日本食体験

世界言語・文化学部の同僚はみんな気さくで、たった一人で日本部門を担当することになった新入りの私に、とても親切にしてくれました。大学関係者から譲り受けた一軒家を改装した建物に学部オフィスを構え、お互いの部屋を行き来しては学生の話をしたり、授業の様子を聞いたり、時には飼い猫の写真を見せてもらったり一緒にコーヒーを飲んだり、和やかな付き合いでした。



世界言語・文化学部の同僚たちと

ちなみに、住むことにしたのはジャクソンビルの隣でイリノイ州の州都であるスプリングフィールドで、アメリカの第16代大統領エイブラハム・リンカーンが大統領になる前の若い時代を過ごしたことで有名な場所です。リンカーンが実際に住んでいた家が私のアパートから徒歩3分ほどのところにあり、中を見学した時は当時のままの家具や内装を見ることができてとても感動しました。リンカーンは、人種差別問題などが根強く残る現在のアメリカでも、絶大な人気を誇っています。



リンカーンの家の室内

そんな私の、忙しいながらも充実感とささやかな幸せで溢れた教師生活をガラリと変えることになったのは、産休・育休中に猛威を奮い始めたコロナウイルスでした。2020年の春から夏にかけて、アメリカでは数々の大学が対面での授業を中止し、

リモートでの授業に切り替えるという方針をとっていました。日本と違って元々マスクをする習慣のない上に良くも悪くも「個人主義」のアメリカでは、人々の良心に任せてマスクの使用を呼びかけるしかなく、大学はもちろんのこと、近所のスーパーでもマスクを使わない人が続出していたのです。当然、イリノイカレッジも対面をやめてリモートでの授業になると思っていたのですが、まさかの対面授業続行とのこと。家族の健康面の不安からどうにかリモートで教えることはできないかと大学と交渉しましたが、許可をもらうことはできず、私はイリノイカレッジを去るという決断をしました。手塩にかけて教えてきた学生たちのことを思うと辞職することは言葉で表せないほど残念なことでしたが、私が辞めた数ヶ月後にオフィスの部屋が隣同士の同僚がコロナを罹患し重症化したことを知り、あの時に辞めていて良かったと思わせるを得ませんでした。



スプリングフィールドの街並み

思ってもみなかったタイミングと理由で天職だと思っていた仕事を離れることになった私ですが、幸いなことに最近になり新たな活躍の舞台を見つけることができました。東京に本社を置くとても国際色豊かな会社で、カリキュラム制作と指導のスペシャリストとして英語学習プログラムのディレクターを務めることになったのです。毎日のミーティングは全部オンラインでのビデオ会議、そして同僚の場所もアメリカ全土・日本・ブラジル・インドネシア・フィリピンと多岐にわたります。コ

コロナ禍が過ぎ去ってもこの形態のワークスタイルが続くということで、高速道路を使って通勤していたイリノイでの毎日とはだいぶ異なる生活になっていきそうです。しかし、今となっては小さな子どもがいる身なので、家で仕事ができる柔軟性を備えた今の職場に巡りあえたことに感謝しています。思ったようにいかないこともたくさんありますが、そこから生まれる新しい出会いや挑戦もあり、人生って面白いなとつくづく思う今日この頃です。一度きりの人生、どうせなら色とりどりの思い出にあふれていた方が楽しいですよ。

今回のエッセーでは、私がアメリカで就職し家族を築くことの原点にもなった留学経験についてお話ししようと思います。